

25期主題

…主イエスのまなざしと出会う…

神さまに、隣人に、そして社会に仕える

「SDGs(エスディージーズ)の理解を通して」

Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標

全国と繋がる女性会連盟・女性会では社会の一員としての繋がりを大切にしながら、より一層互いを知り理解を深める歩みを進めているところです。

今期私たちはシリーズで SDGs=持続可能な開発目標を通して、

今迄の活動とこれからの活動をあらたな視点からも捉え直す取り組みをご紹介します。

第165号ではSDGsの17の目標のNo.16「平和と公正をすべての人に」を取り上げます。

17の持続可能な開発目標とは？

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう



16「平和と公正をすべての人に」

一緒に考えましょう

◎持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する(包摂的とは排除の反対語で、手を差し伸べて仲間にする事)。

◎公正な平和でだれもが受け入れられ、すべての人が法や制度で守られる社会をつくろう。

もっと簡単に

◎争いのない平和な社会を実現するために掲げられた目標です。誰もが受け入れられ、法律や制度で守られる未来を目指しています。あらゆる争いをなくすことも大きな課題です。

◎平和と公正は、紛争とあらゆる暴力や犯罪の根絶、誰もが司法を利用できる状態を目指し、多角的な視点から考えて取り組む必要があります。

2022年2月にロシアによるウクライナへの軍事侵攻が始まって以来、世界の平和はさらに脅かされ分断が深まっています。SDGsの第16の目標「平和と公正をすべての人に」は、平和=紛争の根絶だけではなく、それ以外のあらゆる暴力や犯罪の根絶と誰もが司法を利用できる状態にすることでもあります。この多くのことから世界は遠ざかっていくようです。

—たとえばユニセフによる次の統計を見てください—
◎世界のどこかで、5分に1人、子どもが暴力によって亡くなっています。世界196ヶ国のうち、家庭での体罰や暴力を法律上、全面的に禁止しているのは60ヶ国で、世界の2歳から4歳の子どもの75%は日常的に暴力的なしつけを受けているそうです。子どもが初めて暴力を受けるのが家庭である現実は一撃的なことです。普段の暮ら

しの中でも子どもが暴力に脅かされているのです。平和と言われる日本においてさえ、虐待の被害にあう子どもは後を絶ちません。紛争下では子どもたちも日常を奪われ、生命が脅かされ、暴力に晒され、難民になることさえあります。

平和をつくるために私は、私たちは何ができるのかを考えて目標16を実現すべく力を尽くしたいと思います。ここでは次頁で、広島と長崎で行われている平和をつくるための取り組みをご紹介します。

■女性会の取り組み情報などをお寄せください。
連絡先: 広報担当
Tel/Fax: 095-800-2577
携帯: 080-1782-5665



平和の種をまく

一般財団法人ルーテル会 ルーテル保育所(広島市) 所長 仁田亜紀子

『平和って何だろう』毎年、子ども達と考えます。

もちろん、私は戦争を知りません。だからこそ、平和を創り出す担い手の子ども達の心に、平和を願う大人になる種をまく保育は、とても、大切な事だと思っています。私は、私の思いを押し付けるのではなく、過去にあった事実だけを子ども達に伝え、子どもと一緒に『平和』を考え、その言葉を書き留めていきます。それが、『平和宣言』となるのですが、当たり前の毎日が実は平和だったのだと気付く、大切な毎年の時間となっています。千羽折ると祈りが叶うと言われる『折鶴』も、一羽一羽、心を込めて折り、原爆の子の像に奉納します。子ども達が、何をどう受け留めているのかはわかりませんが、今すぐには、ピンとこないとしても、大きくなった時に、幼児期のこの活動が心に残り、平和を願う大人になってくれる事を信じています。



十年以上前、当時、年長だった娘が、ある朝、顔を真っ赤にして私の処に走り寄って来ました。「先生！わたしが、心をこめて一生懸命折った鶴を燃やした人がおったってニュースで言っとった。そんなことしたら、いけんよね。みんなで、平和を願うのに…」と言いながら、その娘は、涙を流していました。思わず抱きしめた事をその温もりを今も思い出します。



そうなんだよ！その涙こそが、平和の種なんだよ！その娘も、今は、立派に成人していま

す。きっと、平和の種は、あちらこちらで芽を出し、平和の花を咲かせてくれていることでしょう。

▲「アオギリの歌」を歌う子ども達(写真/上)

◀子ども達が考えた“へいわせんげん”(写真左)



絵本をとおして平和を考える

とらねこ文庫 廣瀬美由紀(長崎教会)

1999年に家庭文庫として金沢市で生まれたとらねこ文庫は、その後宮崎、長崎と拠点を移し、2013年からは長崎教会の集会室を借りて活動を続けています。被爆地長崎に住んでみると、被爆の記憶を呼び覚ますものが目に入り、被爆者以外にも原爆の被害の実相を伝えている人たちがいることに驚きました。長崎に住んでいたら原爆と平和の問題は避けては通れない。それならと自分にできることを考え始めました。私の取柄といえば、長年培ってきた絵本の知識と読み聞かせ。学校や園などで平和学習の出前講座をしているピースバトン・ナガサキというグループに入って、子どもたちに絵本を読むようになりました。絵本は平和を感じたり、平和について考えたりするきっかけになります。

2017年11月には教会の集会室と礼拝堂を借りて、平和のメッセージ原画展を開催しました。63名の絵本作家の絵とメッセージを展示。(2018年に『戦争なんか大嫌い！—絵描きたちのメッセージ』として、展示作品を掲載した本が大月書店から刊行されたので、ぜひ一読を)様々な人の協力を得て1週間教会をオープンにし、コンサートや講演会などのイベントを実施しました。多くの来場者に教会は平和を祈り、発信する場だと印象づけられたと思います。

2019年7月には九州教区の平和セミナーで「へいわってどんなこと？—絵本をとおして平和を伝える—」の講師を務め、絵本をたくさん紹介しました。選び抜かれた言葉

と絵で構成される絵本は大人の心にも響きます。皆で読んで語り合うだけでも平和への意識が深まります。大人にも読んでほしい絵本を紹介します。

『せんそうがやってきた日』
ニコラ・デイビス 作 レベッカ・コップ 絵



長友恵子 訳 / 鈴木出版

*2016年の春、イギリス政府は3千人の子どもの難民の避難所収容を拒否し、同時期にこの絵本の作者は、難民の女の子が椅子がないのを理由に、学校への入学を拒否されたと耳にしました。そこで『せんそうがやってきた日』の詩をつくり、誰も座っていない椅子の絵とともにツイッターに投稿したところ、大きな反響があり、ついには絵本として刊行されました。絵本で描かれているのは、突然やってきた戦争で、家族とはぐれ、ひとりぼっちで逃げてきた女の子が、やっとのことで戦争のない場所にたどり着いたのに、椅子がないという理由で拒否される姿。そして絶望する女の子のもとへ男の子が椅子を持ってきてくれます。*椅子が象徴するのは、子どもが将来への希望を持って生きるためには教育が必要だということ。だれ一人取り残されないというSDGsの目標と重なります。